

最上位目標 **夢** × **未来** = **自立** **夢**が自分の**未来**を創りだす

令和7年度 上陽小学校「未来の学校創り」経営ビジョン

上陽小学校のインクルーシブ教育の推進を目指す
「未来の学校創り」は児童・保護者・地域の方々・教職員の“Well-being”に貢献します。

ウェルビーイング

上陽小学校は、「群馬県教育ビジョン」に基づき、2040年以降を見据えた「持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根ざしたWell-being」の向上を目指し、子供一人一人がAgencyを発揮し「自分で決める（自己決定）」教育を推進することで、本校の最上位目標である『**夢** × **未来** = **自立**』を実現します。



Boston University Student Wellbeingより

“Health is a state of complete physical, mental and social well-being and not merely the absence of disease or infirmity.”

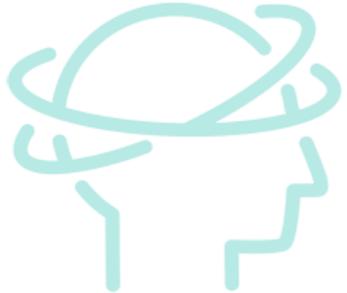
健康とは、病気ではないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。（日本WHO協会仮訳）

最上位目標 **夢** × **未来** = **自立** **夢**が自分の**未来**を創りだす



INTELLECTUAL

- ・ 知的好奇心を満たす専門性の高い授業や課題が提供されます
- ・ AI型学習ソフト（Qubena）と連携した自由進度学習を取り入れることで「自立した学び」の機会が作られます。



EMOTIONAL

- ・ チーム担任制（複数担任）による多面的で多角的なサポートが、児童の見えない学力（非認知能力）を高めます。
- ・ チーム担任制（複数担任）により教職員の心的な不安や重圧、キャリアによる学級間格差が解消され、一人一人の強みを発揮する活躍へとつながります。



SOCIAL

- ・ インクルーシブ教育を推進し、多様性を受け入れる寛容な心を育てます。
- ・ 学年を越えた「体験と交流」が共創や協働を推進します。
- ・ 複式学級のよさを取り入れた合同授業で、学年を越えたコミュニティが作られます。

最上位目標 **夢** × **未来** = **自立** 夢が自分の**未来**を創りだす

夢 × **未来** = **自立**

インクルーシブ教育の推進 Agencyを発揮しWell-Beingの実現

課題認識力

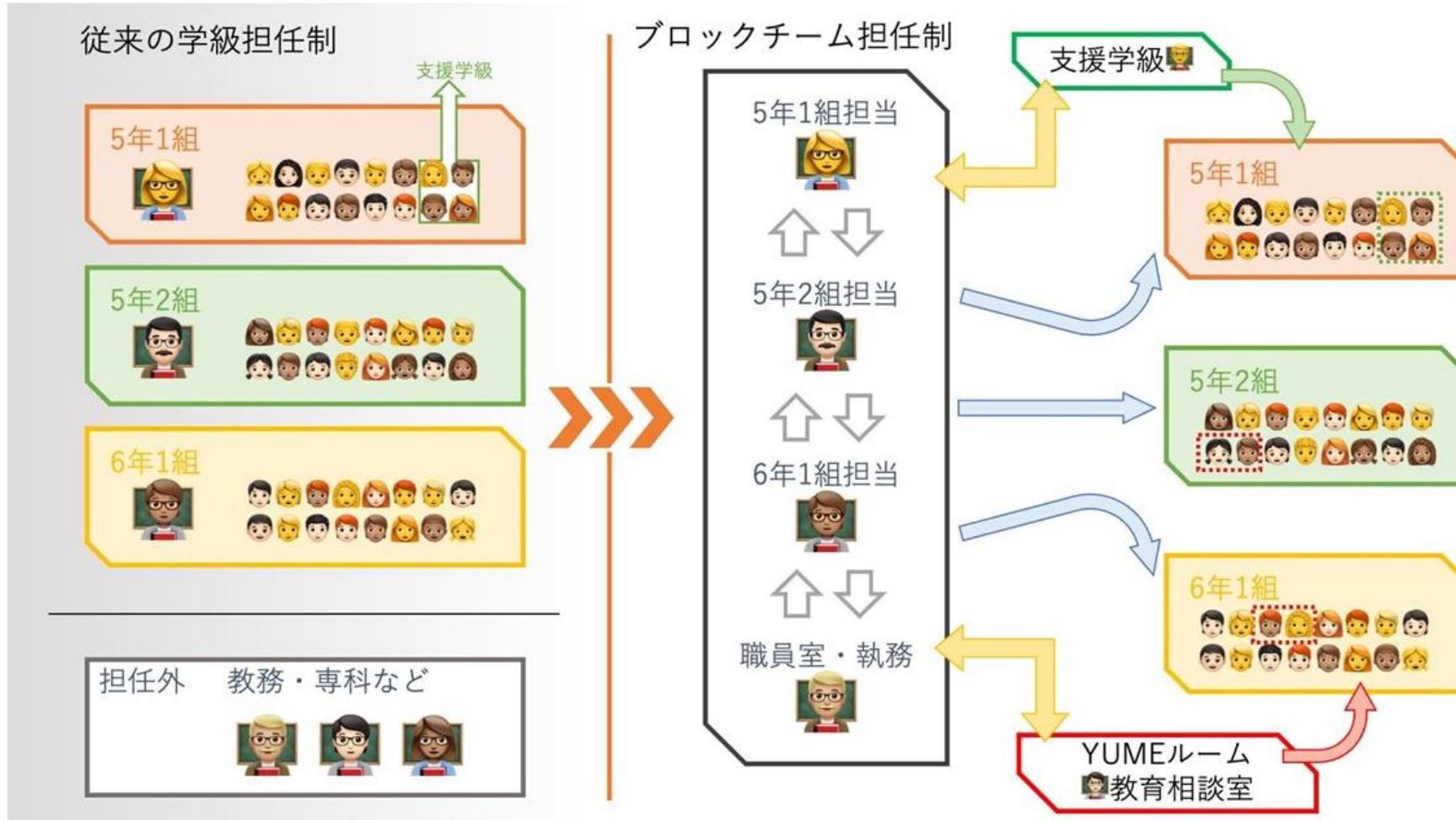
認知能力

○課題解決への情熱・ねばり強さ

- ・ブロックチーム担任制、道徳専科の導入
- ・ブロック校外学習
- ・総合的な学習の時間
- ・全校ビブリオバトル等、集会活動の充実

- ・AI型学習教材Qubenaの導入
- ・自由進度学習（モジュール学習）

最上位目標 夢 × 未来 = 自立 夢が自分の未来を創りだす



教科担任制（道徳専科の導入）

効率的に教材研究することができ、専門性を高めた質の高い授業が提供できるようになります。

インクルーシブ教育

支援学級担当とのシームレスな連携により合理的配慮が施されます。アンコンシャスバイアス（無意識の偏見）が取り除かれ、本校の強みである「多様性や寛容性」を高めることに繋がります。

YUMEルーム：教育相談室

心理的な安全性を保障する「居場所」を校内につくることで登校のハードルを低くし、本人の社会的自立を目指して個に寄り添います。
(Your あなた) (Unique らしい) (Mind 心を) (Expands 広げよう)

教員の多様な働き方

出張や休暇等で休講となる場合や時短勤務の場合にも、授業交換や合同授業等に対応でき、自習準備等の負担が軽減されます。

- 学年を越えて4名の職員で4つの学級を担当します。
- 児童や保護者は複数いる担当だれにでも相談することができますが、ケース内容や他ケースとの調整により最適な担当者が指定されます。
- 担当のうち1名はリーダー（ブロック主任）としてディレクション業務を行います。
- 情報は常に共有され、シームレスに対応されます。

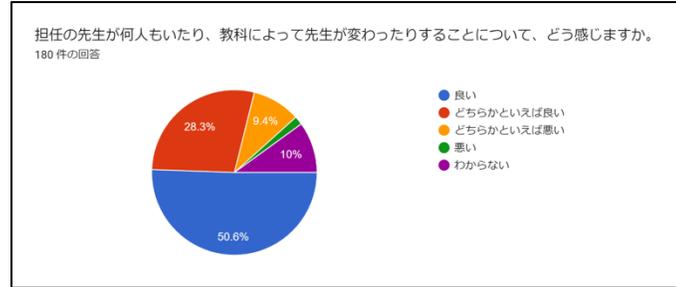
最上位目標 **夢** × **未来** = **自立** 夢が自分の**未来**を創りだす

ブロックチーム担任制導入後3か月経過。児童と保護者のニーズをつかみ、仕組みを改良する。

児童アンケート

肯定的 (78.9%)

否定的 (11.1%)

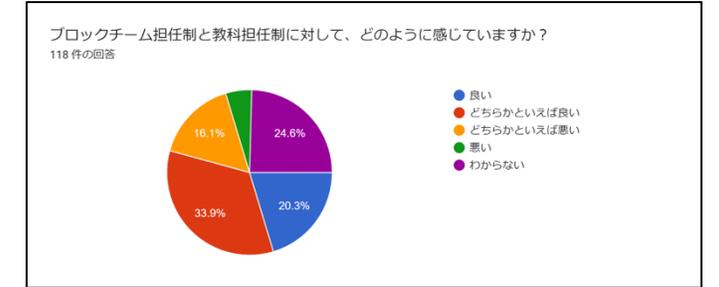


- ・1人より、3人・4人のほうが、相談しやすい。(4年)
- ・担任の先生が2、3日ごとに変わり、どの先生がくるのか楽しみ。(5年)
- ・一人の先生だと、その一人の先生に話せなくても、何人もいるから話す人が増える。(6年)
- ・慣れるのに時間がかかり、恥ずかしかったり緊張したりする。(4年)
- ・先生によって態度を変えてしまう。(6年)
- ・自分の生徒として先生方が責任を持っていないと感じた。(6年)
- ・4人の先生に伝わるから、相談しづらい。(6年)

保護者アンケート

肯定的 (54.2%)

否定的 (21.2%)



- ・悩み事など相談しやすい先生が居てくれる事で子供が安心して学校に行ける。
- ・「たくさんの先生を知ることができる」「たくさんの考えを聞くことができる」という子供達の適応力に頭の固い親の心配は一蹴された。
- ・担任の良し悪しや子供との相性がある以上、複数の先生と関わりがあることはメリット。
- ・先生方の精神的・肉体的負担が軽減されることで、子どもにとってもより良い環境づくりに繋がる。
- ・連絡や相談は1人の担任のほうがしやすい。
- ・いざという時、4人の誰でもいいと言われても、誰に行ってもいいかわからない。
- ・子供達の細かい情報を共有出来ているのか疑問。
- ・学年の最初にチーム全ての先生の顔や名前やプロフィールを知るチャンスがほしい。
- ・複数担任の全ての先生の授業が見られる機会があると保護者には安心感がある。

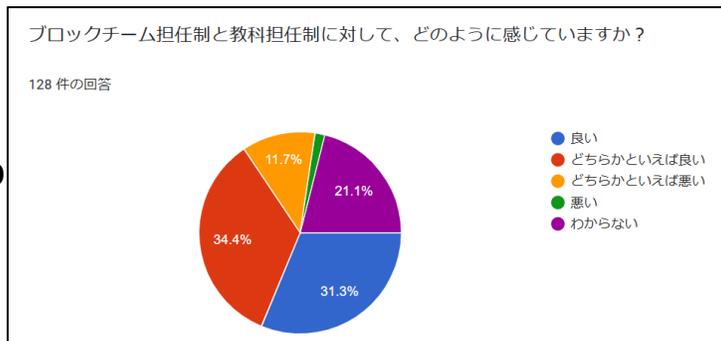
○ 「大切な我が子をしっかりと見て欲しい」という保護者の願いに応える。

- ・「関係が浅い」「本当に誰に相談しても大丈夫か」などの不安を払拭する情報共有と迅速な児童、保護者対応
- ・担任チーム全員が、全児童と保護者にとって身近な存在となる相互交流や理解の機会の充実

最上位目標 **夢** × **未来** = **自立** 夢が自分の未来を創りだす ブロックチーム担任制導入後1年経過。ニーズに応える改善の成果は。

児童アンケート

肯定的ご意見
78.5% → 74.2%
否定的ご意見
11.1% → 10.0%



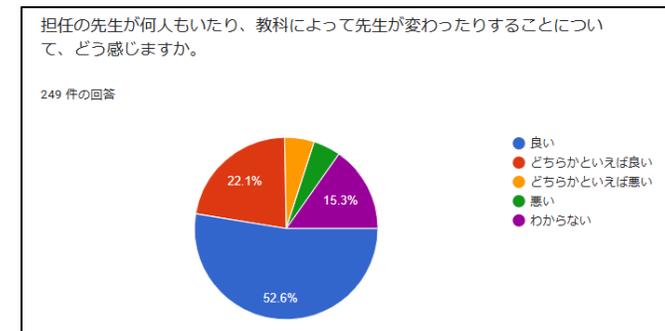
- ・いろいろな先生がいると、話しかけやすい人や面白い人にそうだしやすかった。ひとりだけの担任だと、その人が話しかけにくい人だったら相談する人がいなくなってしまう。(3年)
- ・担当の先生が校内のどこかにいるから、声をかけやすい。(6年)
- ・去年は担任の先生くらいにしか相談できないイメージがあったが、ブロック担任制になってから、自分の好きな先生に相談できるからとても良い。(5年)
- ・「自分のクラス主任」というのがなくなりブロック担任制になることによって、相談できる先生が4人に増え相談がしやすくなった。(6年)
- ・苦手な先生が一年間担任で学校に来るのが大変な子を見たことがあるから良いと思う。授業によって違う先生に授業を受けるのが私は結構楽しいから良いと思う。(6年)
- ・好きなアーティストが同じ先生が見つかり、話しやすかった。(6年)
- ・(担任が変わり督促等の機会が減ったことで)宿題などの提出率が下がったり、連絡帳がなくなったことで忘れ物も増えているように感じた。(6年)

『分からない』10%→15.8% が表す意味は？

「メリットとデメリットを両方感じている」「当たり前になっている」などの意見が予想できるが、子供たちの気持ちを今後汲み取り、分析の必要があると考えている。

保護者アンケート

肯定的ご意見
54.2% → 65.7%
否定的ご意見
21.2% → 13.3%



- ・最初は正直子供達もなれず、親も不便だなと感じていた。どの先生に相談したらいいのかも含め今まで通りが良かったと思っていたが、一年が経って不便さを感じなくなった。教科担任制が当たり前になってくるであろう。
- ・担任教師が複数いることで、この件はこの先生に聞きやすい、この件はこの先生に相談したい、と子どもは状況に応じて考えて聞く行動していた。若手からベテランと父兄からしてもバランスよく相談しやすかった。
- ・学校が変わったと感た。とても良い方向に。子供達の成長が促進されること、同時に個性が引き出されていること、なにより活気溢れる学校の姿に驚いた。
- ・担任が変わる前後日に何かあった時に、変わった先生にもきちんと情報が伝わっているのならばブロックチーム担任制も幅広い視野が持てると思うので良い。
- ・担任1人ならクラスのことは把握してくれているかなと想像できるが、4人もいるとどこまで見てくれているのかわからない。広く浅くな感じがして先生への信頼感が下がる。あくまで制度の不満。

○はじめての試みだからこそ、児童と保護者と一っしょにシステムを創ることが求められる。

- ・安心できる居場所として、相談できる専門家として、信頼できる学校のあるべき姿を協創する。
- ・上陽小学校に関わるすべての人たちが、未来の学校を創りに動く。(すべての人=児童, 保護者, 地域, 教員 など)

最上位目標 夢 × 未来 = 自立 夢が自分の未来を創りだす

校内支援室“YUMEルーム”の新設

通常学級

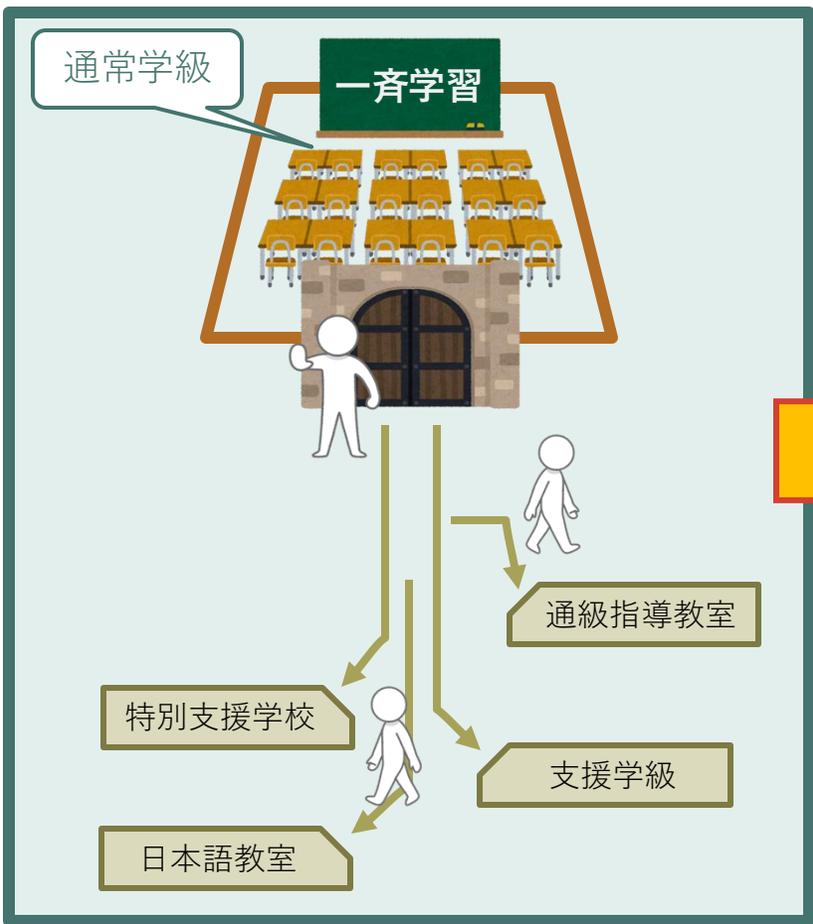


支援学級

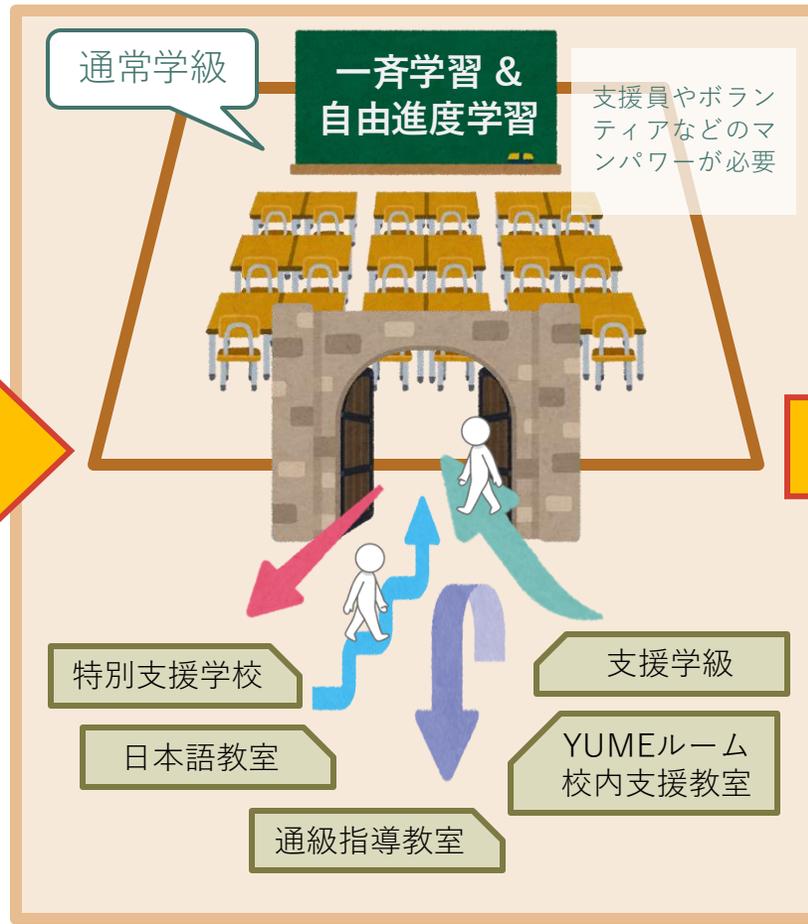
YUMEルーム

「通常学級」「支援学級」「YUMEルーム」はいずれも学校にある子どもたちの“居場所”である。上下も区別も格差も必要無いフラットな関係。無自覚の差別（マイクロアグレッション）を解消していく必要性。

最上位目標 **夢** × **未来** = **自立** **夢**が自分の**未来**を創りだす



Segregation(分離)



Integration(統合)



Inclusion & Diversity
(包摂と多様性)

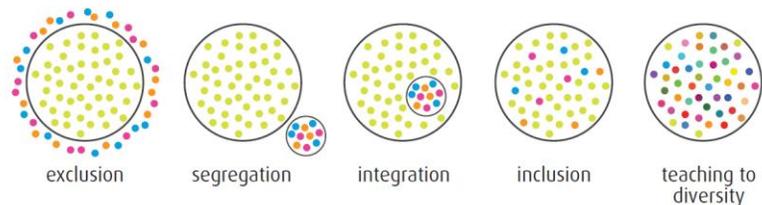
“スーツケースではなく風呂敷で”(大空小学校 木村泰子校長)

子供たちを堅い殻に入れて守ろうとするのではなく、カタチに合わせて優しく包み込む。
子供たちが学校（の前例や慣習に）に合わせるのではなく、学校が子供たちに合わせる。



最上位目標 夢 × 未来 = 自立 夢が自分の未来を創りだす

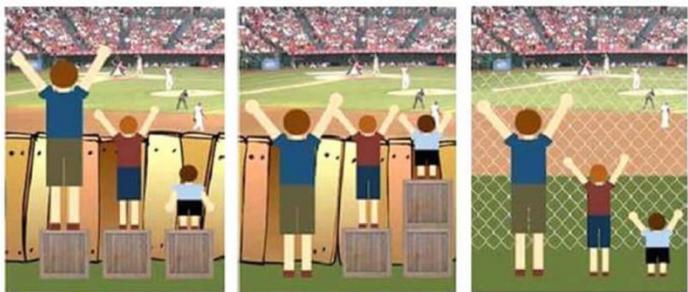
“インクルーシブ教育”を実現させるブロックチーム担任制



(fig.1)

通常学級の児童は黄ドットで示されており、支援学級生徒は他の色となっています。
子どもたちにはそれぞれ色があります。平等に評価すべきであり、同じ色に染め直す必要はありません。

EQUALITY VERSUS EQUITY



In the first image, it is assumed that everyone will benefit from the same supports. They are being treated equally.

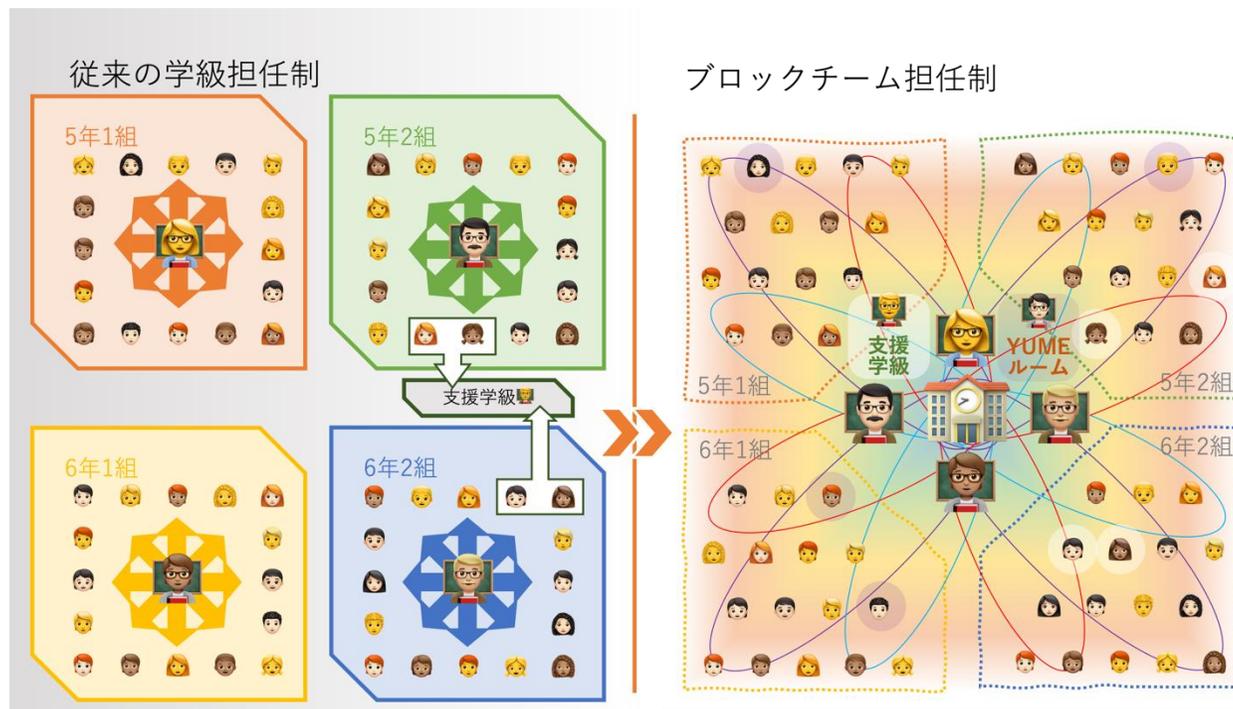
In the second image, individuals are given different supports to make it possible for them to have equal access to the game. They are being treated equitably.

In the third image, all three can see the game without any supports or accommodations because the cause of the inequity was addressed. The systematic barrier has been removed.

(fig.2)

3枚とも平等や公平を表していますが、システムを変えることで全員が特別なサポートを必要とせずゲームを楽しむことができるようになります。

"segregation"(分離)から"inclusion"(包含)へ。
その先の“teaching to diversity”(多様性の理解)へ。



- 支援学級との常時相互交流
- ゆめルーム（教育相談室）新設

- クラスや学年にとらわれない自由な関係性
- 全員がすべてを利用可能なオープンなシステム

引用、参考

諸外国におけるインクルーシブ教育システムにおける動向:令和元年度国別調査から,国立特別支援教育総合研究所
Implementing Inclusive Education in BC's Public Schools: Report on the June 14, 2017, Inclusive Education Summit. Inclusion BC.(fig.1,2)
The Inclusive Education Summit 2017, Adelaide 27th to 29th October 2017, University of South Australia.
The Inclusive Education Summit 2018, Deakin University, Waterfront Campus October 26-29,2018
American Education Reserch Association <https://www.aera.net/>
TIES Center, University of Minnesota <https://tiescenter.org/>
Inclusion BC <https://inclusionbc.org/>

最上位目標 夢 × 未来 = 自立 夢が自分の未来を創りだす

教師の得意を生かす

教員のキャリアや年齢によらず、指導や支援の学級間格差を均等化することができる。得意を生かし不得意を補い合う教員集団になる。

教職員の不安解消

学級運営を任される不安や重圧が軽減され、教員一人一人のモチベーションを高めたり、能力を引き出したりすることができる。

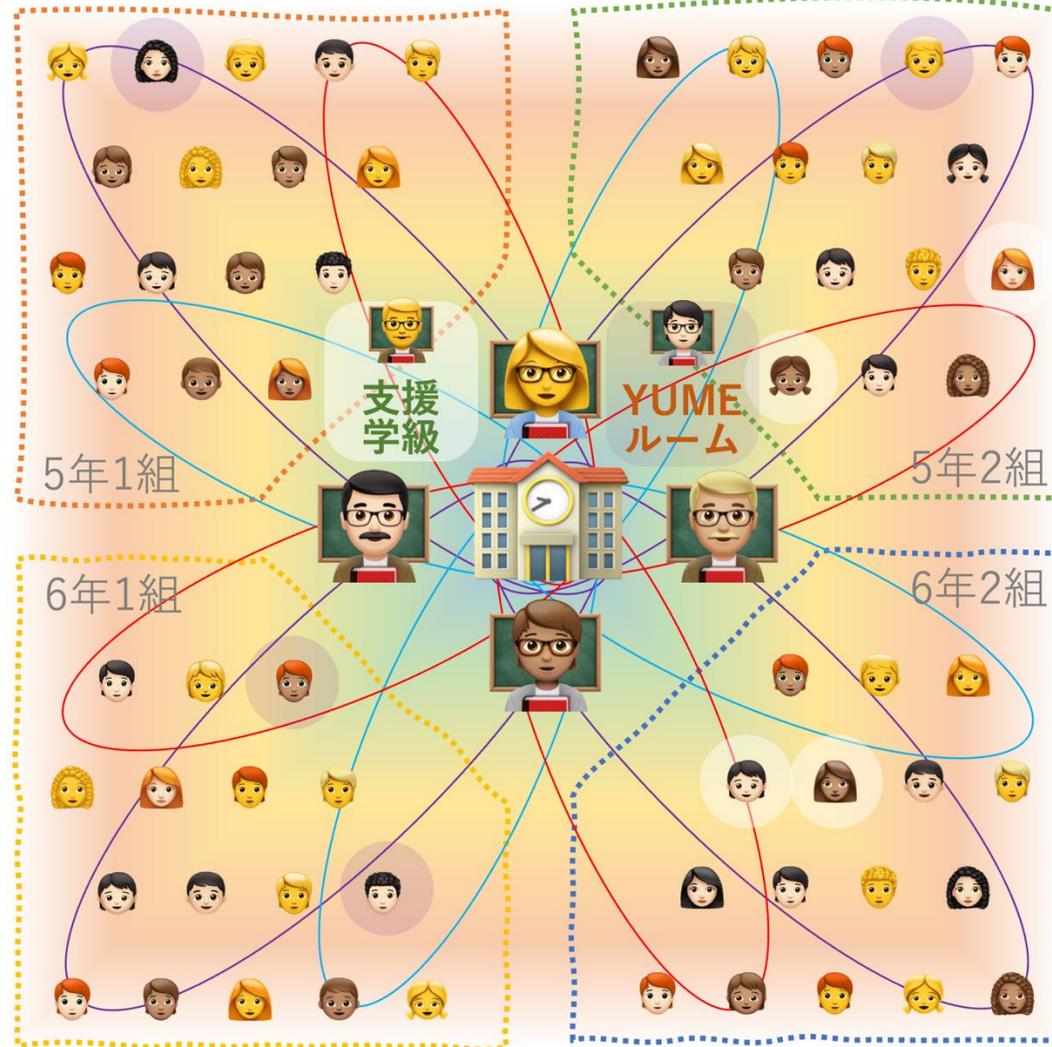
多面的な見取り

複数の教員で多面的・多角的に児童のよさを見取り、よりきめ細やかな支援を行うことができる。

教員間コミュニケーション

児童理解や児童支援に関するコミュニケーションが活発に行われ、児童が安心して過ごせる環境をつくることができる。

ダイバーシティな教育環境を創る 上陽小職員ネットワーク



シームレスな組織

学年担当というシームレスな組織にすることで、多様な働き方に対応。限られた条件の中で最大限に能力が発揮できる。

選択肢の広がり

児童や保護者にとって相談する際の教員の選択肢が広がり、状況に応じた最適な対応が可能になる。

多様なニーズに対応

児童や保護者の多様なニーズに効果的に対応することで早期に問題解決ができる

クラスの枠を越えて

学校行事では、児童の主体性が今まで以上に求められるようになり、児童の「自立」を培う場として期待できる。

最上位目標 夢 × 未来 = 自立 夢が自分の未来を創りだす

共に学び合う集団へ

学校という最大の学び場でそれぞれのキャリアステージにおける教職員の資質能力の向上を目指す

教師の得意を生かす

教員のキャリアや年齢によらず、指導や支援の学級間格差を均等化することができる。得意を生かし不得意を補い合う教員集団になる。

自己分析

自分自身の実践を見直し、学校での中での自分の役割に改めて気付くことができる。

教職員の不安解消

学級運営を任される不安や重圧が軽減され、教員一人一人のモチベーションを高めたり、能力を引き出したりすることができる。

ダイバーシティーな教育環境を創る
メンター研修の充実



新たな視点の発見

様々な視点で学校課題を検討することで、新しい考えをもとに学校をよりよくしていく

時代の変化をつかみ取る

情報を適切に収集し、選択し、活用する能力や知識を有機的に結び付け構造化する力を身に付ける

メンタルケア

気兼ねなく考えを伝え合うことで、人間関係を深め、メンタルケアや日常的な指導・支援、孤立化の防止

最上位目標 夢 × 未来 = 自立 夢が自分の未来を創りだす

日本経済新聞

不登校最多、小中学校内に居場所6割増へ 空き教室活用

空き教室を利用して不登校の児童生徒を支援する「校内教育支援センター」が拡大する。文部科学省は全国の公立小中学校6千校に新たに設け、現在より6割増やす方針だ。不登校が約29万人と最多を更新するなか、子どもの居場所の確保を急ぐ。

校内教育支援センターは子どもが学校には行けるがクラスには入りづらい時などに気分を落ち着かせたり、学習のサポートを受けられたりする取り組みだ。「校内フリースクール」とも呼ばれ、現在は全国で約1万校が設置しているとされる。

不登校を未然に防いだり、登校復帰を支援したりする目的がある。学習端末などで自分のクラスと遠隔でつなぎ、オンラインでの指導やテストを受けられることも想定している。

全ての学校で設置しているのは23年2月時点で228自治体で、規模拡大が急務となっている。空き教室を使うため費用が比較的にかからず、元々通っていた学校にあれば子どもの距離的な負担は小さい。

文科省幹部は「将来的には全ての小中学校に設置できるよう整備を進めていきたい」と話す。

教育委員会月報

Series 地方発! 我が教育委員会の取組 愛知県岡崎市教育委員会

誰一人取り残さない! 校内フリースクールF組

～適応するのは子供ではなく学校～

はじめに

文部科学省が実施している「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」において、令和3年度の全国の小中学校の不登校児童生徒は、約24万5千人となり、9年連続の増加となった。岡崎市においても、不登校児童生徒数は年々増加傾向となっており、不登校対策は喫緊かつ最重要課題であることは言うまでもない。

上述の調査において、不登校の要因を問う質問がある。公立小中学校の結果の主たる要因に着目してみると、「友人関係を含める問題」は9.7%、「習字の慣れ方」8.1%、「生活リズムの乱れ」11.9%などとなっている。その中で、最も高い割合となっているのが「精気力・不安」の50.0%である。では、この「精気力」や「不安」の割合が多いのはなぜか。その問いを学校が自ら向けることが必要であると考え。

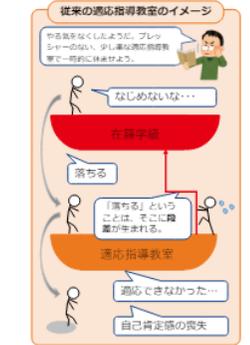
本報では、その問いを自ら向けることで生み出された「校内フリースクールF組」(以下、F組) についてまとめた(本市では、「不登校」を「長期欠席」と呼んでおり、本報でも同様で使用している)。

1. F組設置の経緯

(1) 校内適応指導教室の実態から

長期欠席対策の一つとして、本市では、各校の実情に応じて、校内適応指導教室を設置していた。学校や学級に足が向かなくなった場合、適応指導教室を利用し、在籍学級に戻るためのエネルギーを蓄える、一時的に休息する場である。しかし、在籍学級に戻ることを目的としているため、適応指導教室を利用する子供の中には、「在籍学級に適応できなかった」と感じ、「落ちた」という感覚が

心どどこかに生まれている現状があった。また、教員の中心にも、同じ感覚をもって居る者がいたのも事実である。



この「落ちた」という感覚は、在籍学級との間に、大きな段差を生み、その段差を乗り越えられない子供は、適応指導教室でも、戻つらさを感じ、学校の中に居場所がなくなってしまうといった実態があった。

(2) 特性に応じた学びの場を確保するため

誰一人取り残さないことなく個別最適な学びを保障していくことが学校教育において重要であることは言うまでもない。これは、いわゆる「不登校」の状態にある子供に

対しても同様である。そのため効果的な支援をしていくために、「不登校」を登校できない子とらえるのではなく、「特性に応じた学びの場が必要なり」としてとらえるなど、これまでの意識転換を大きく変えていく必要がある。また、それと同時に、その特性に応じた多様な学びの場を、学校が確保していく必要があると考えた。

この2点に共通する「子供を学校に適合させるのではなく、学校が子供に適合する」という考え方を根拠に、これまでの校内適応指導教室を発展的に解消しながら、選考多様性を認める教室であり、そして、全ての人が他の学級と同じ1つ1つの学級と認められる教室となるF組の設置に至った。

3. F組の活動の実態

「Free・Fly・Future」の頭文字を取ったF組。この言葉のとおり、F組では、生徒に自己決定の場を与え、安心した環境の中で楽しく学び、社会的自立へつなげている。そのF組の取組の一環を紹介する。

(1) これまでの教室にない空気感の創出

F組に通っている生徒の中には、人目を気にする生徒もいるため、教室の場所については、動線を考慮し、外から入りやすい教室を使用している。教室内については、丸みのある机やソファなどを設置し、心安く空間となるよう環境づくりをしている。また、人とのかわりか苦学生徒もいることから、パーティションを用いた個別学習スペースを設置している。



個別学習スペース

2. F組の理念

F組という教室を設置しただけでは、学校が子供たちにとって安心できる場所にはならず、学校にかかわるすべての人の考えを変える必要がある。そこで、次に示した「F組の理念」を掲げた。この理念を、子供・保護者・教職員に浸透させていくことが、F組に通う子供の心理的安全性を確保し、学校に居場所を作ることにつながる。

- <F組の理念>
- ①子供が学校に適応するのは学校が子供に適応する。
 - ②通常学級と同じ、1つの学級として扱う。
 - ③経験の厚い教員を担任として配置し、多様性を受け入れられる学級を作る。
 - ④支援員を配置し、いつでも選考で迎える体制を作る。
 - ⑤教室運営を目的とするのではなく、社会的自立を目指す。

(2) 1日の活動を自分で決める

F組での過ごし方については、自分で1日の時間やスケジュールを決める。自分のペースで学習に取り組めるようにするとともに、自己決定の場を与える。その取組を、担任や支援員が支え、生徒が小さな成功体験を積み重ねていくことで、自己肯定感を高めることにつながっている。なお、活動の時間(実技教科やコミュニケーションの時間など)を、各校の実情に応じて、1日の時間割の中に組み込んでいる。

上陽小学校では「YUMEルーム」と呼称
Your Unique Mind Expands
あなたらしい ところを ひろげよう

最上位目標 **夢** × **未来** = **自立** 夢が自分の未来を創りだす

教員の強みを最大限に生かす教科担任制 (週あたりの組み合わせ高学年例)

	5年1組	5年2組	6年1組	6年2組	他	授業なし
	国語 5	国語 5	国語 5	国語 5	総合 8 (各2) 特活 4 (各1)	5 以上
	複式合同授業 算数 4		算数 4	算数 4		8 以上
	体育2.5 図工1.5 道徳1	体育2.5 図工1.5 道徳1	体育2.5 図工1.5 道徳1	体育2.5 図工1.5 道徳1	合同授業により12人以下にすることができる。	5 以上
	社会 3 英語 2	社会 3 英語 2	社会 3	社会 3		7 以上
担任外 専科教員	理科 3 音楽 1.5 家庭 1.5	理科 3 音楽 1.5 家庭 1.5	理科 3 英語 2 音楽 1.5 家庭 1.5	理科 3 英語 2 音楽 1.5 家庭 1.5		

【教材研究】

授業は1組と2組で繰り返せる。**新規の授業は半分**、半分はブラッシュアップにより、効率的かつ質の高い授業に。

【自由進度学習】

【イエナプランの参考】

AI型学習教材を活用した**自由進度学習**による**個別最適化**。
単元配列を2学年で調整(複式用年計)することで、**異学年で学び合い**のある合同授業。
5年生では**先取り**、6年生は**学び直し**の機会となることで、効率的かつ**確実な学習**が可能。

【保護者・地域対応】

授業時間中も保護者や地域への対応がしやすい。

【休講・補講】

職員室での執務予定の教員との**授業交換**がしやすい。**自習回避**により、児童・教員双方にメリット。

【他学年授業】

他学年の授業を受け持つことで、専科教員の入らない**低学年担当が職員室での執務**を確保。

【YUMEルーム】

全教員が教育支援室の監督をすることを通して、全校への理解を促進。

【イエナプラン教育を視野に。複式合同授業の導入と自立した学びの拡大】 *R7年度～予定

- ・既存の自由進度学習を拡大。イエナプラン教育を視野に入れ、異学年の学び合いと助け合いを通常の授業にも導入。
- ・自分で計画を立てて、自分のペースで学習を進める (自由進度学習と大学シラバスおよび履修登録を複合させたような仕組みを導入検討中)
- ・ワールドオリエンテーション⇄総合的な学習の時間⇄STEAM教育 の接続で、社会情動的スキルの育成を図る。
- ・学年ブロック合同総合的な学習の時間と校外学習の充実 (1,2年:夢をつくる@KidZania, 3,4年:みなかみGO!, 5,6年:TokyoWalker) *R5より順次実施

最上位目標 **夢** × **未来** = **自立** **夢**が自分の**未来**を創りだす

各ブロック運営方針

	低学年ブロック	中学年ブロック	高学年ブロック	支援学級ブロック
朝夕学活 給食	4月より交代開始。 担任を固定する印象を払拭しつつ、 発達段階に合わせて長期(2週間)での 交代とする。 システム・やり方を統一。 (中学年にスムーズに移行できるように 交代の頻度を徐々に変えていく。)	4月より毎日交代することによ り、担任固定の印象を払拭。 システム・ルールをブロックで 統一。児童主体の学級づくりを を目指す。	4月は毎日交代。5月以降は1週 間周期の交代に挑戦。 担任を固定する印象を払拭。 全職員で全児童の成長に関わる スタンスで。	それぞれの学級(3学級)で教 育課程や児童の実態が異なるた め、基本的には各学級対応とす る。給食は、支援級合同。
授 業	最初の一ヶ月はその時の担当が 授業を行う 5月中旬から教科担任制を実施。 他ブロックの教員による授業は 4月から実施(道徳、英語等)。	4月より教科担任制スタート	4月より教科担任制スタート 教師が専門性を高め、質の高い 充実の授業へ研究。	各学年ブロックの時間割と照ら し合わせ、支援級の枠を取り 払った合同授業(児童の実態に 合わせ異学年児童が共に学ぶ 場)を展開する。
総合的な学習 STEAM教育 探求的な学習	探究課題 夢を「つくる」	探究課題 こころを「つくる」	探究課題 未来を「つくる」	探究課題 生きる力を「つくる」
学活 学校行事等	合同実施で、学年を越えた学び 合い。 職員の効率的な働き方推進。	合同実施で、学年を越えた学び 合い。 4年生はリーダー、3年生はサ ブリーダーを意識し、行事を実 施する。	合同実施で学年を越えた学び合 い。 上陽小流のリーダー養成に主軸 を置き、下級生へも影響力を。 職員の効率的な働き方も推進。	支援級合同イベントを学期末や 学校行事の区切りの時期に実施 し、児童の頑張りを児童同士や 職員とねぎらう。
その他	行事を見直し、学年ブロックで 参加できるものに再編成。	行事を見直し、学年ブロックで 参加できるものに再編成。	行事を見直し、学年ブロックで 参加できるものに再編成。 低中ブロックからの流れを生か した構成に。	児童の特性を生かした運営がで きるよう、各学年ブロックの職 員と情報共有を図る。

最上位目標 **夢** × **未来** = **自立** **夢**が自分の**未来**を創りだす

自由進度学習を推進するモジュール学習の導入, 校時表 (案, R6年2月現在)

		月	火	水	木	金
朝学活	8:20-8:30					
行事・M	8:30-8:45	モジュール	読み聞かせ	全校行事等	モジュール	モジュール
1校時	8:50-9:35	1	2	3	4	5
2校時	9:45-10:30	6	7	8	9	10
20分休み	10:30-10:50					
3校時	10:50-11:35	11	12	13	14	15
4校時	11:45-12:30	16	17	18	19	20
給・清・休	12:30-13:55					
5校時	13:55-14:40	21	22	25 *1	23	24
6校時	14:50-15:35	委・ク	26	ブロック会議	27	28

【モジュール】
算数に特化した学力向上に活用。
AI型学習教材の導入で、個に応じた学習支援。
自由進度学習への挑戦
*2

【コマ間10分】
児童教師共に余裕を持って授業準備が可能。
教科担任制により生まれる移動時間を吸収。

【ブロック会議】
29→28コマによりブロック会議の時間を確保し、職員間の連携を図る。

- 1年生 1~24 + (25,STEAM教育への転用を検討中 *1)
 - 2年生 1~25
 - 3年生 1~27
 - 4年生 1~28 + クラブ
 - 5~6年生 1~28 + クラブ, 委員会
- (水)全校行事の場合、学活を5分短縮し前後の移動時間に充てる。
- *1,*2を通じて、非認知能力のさらなる向上を模索したい。

最上位目標 夢 × 未来 = 自立 夢が自分の未来を創りだす

～非認知能力の育成を目指した未来の教育課程の構築～

東洋経済
ONLINE

目黒区「40分授業午前5時間制」20年で見た成果 授業時数確保に加え学習面や働き方にも変化

新学習指導要領の実施に伴い授業時数が増え、新型コロナウイルスの影響で授業に遅れが出る学校もある中、改めて「授業時数の確保」は教育現場で課題となっている。そんな中、解決策の1つとして注目されている「午前5時間制」。導入例は全国で増えつつあるが、いち早く約20年前から採用したのが、東京都目黒区だ。2002年に1校からスタートし、現在は区内で15校にまで広がった。生活面や学習面、教員の働き方などにも変化が見られるというが、どのような効果が期待できる仕組みなのか。



- ・次期教育振興基本計画, PISA2022, 次期学習指導要領(2027年?)を視野に入れた研究
- ・40分授業に対応できる新しい教育課程や特色ある学校創りの模索
- ・STEAM教育や総合的な学習の時間、自由進度学習 (A | 学習教材の活用) による非認知能力の育成



YOL 読書新聞 オンライン

小中学校の授業を5分短縮、年間で計85時間を弾力的に運用へ...各学校の裁量で自由に

2024/02/10 05:00

この記事をスクラップする

文部科学省は小中学校の授業時間を見直し、学校の裁量を拡大する方向で検討を始める。授業時間を5分短くし、短縮分を各校が自由に使えるようにすることなどを想定している。文科省は次期学習指導要領への反映に向け、今年秋にも中央教育審議会に諮問する見通しだ。



小中学校の授業時間は、学校教育法施行規則に「標準例」として示されている。現在は1コマあたり小学校45分、中学校50分で、文科省はこれを小中とも5分短縮して小学校40分、中学校45分にそれぞれ短縮する見通しだ。

経済産業省「未来の教室」実証事業

COMPASS Inc.
×
千代田区立 翹町中学校

LEARNING INNOVATION Qubena

実施内容

目的 アダプティブラーニングを活用した学習の効率化（学習時間の短縮）と学習効果の向上を確認する。さらに、効率化によって創出された時間を活用し、各科でSTEAM教育を通して、実社会における社会課題と教科学習の必要性を学ぶ。

教科学習 アダプティブラーニングによる知識・技能の習得	探究学習 STEAM教育
<p>教科学習の効率化</p>	<p>探究学習の効率化</p>
<p>内容 複数の教科学習時間（英語・数学）においてアダプティブラーニング教材を導入し、知識・技能の習得を行う。</p> <p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> AIが生徒一人ひとりに個別最適化された問題を出題 4年生を過した英語の学習 学習データをもとに教師が適切な指導・授業を行う 	<p>内容 最先端テクノロジー及びESDや世界に存在する社会課題等について学び、課題解決の手段として最先端テクノロジーと数学・英語を学ぶ。</p> <p>ポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> 教科学習時間の効率化によって創出された時間を活用 社会課題、テクノロジー、数学、英語を統合

最上位目標 夢 × 未来 = 自立

夢が自分の未来を創りだす

上陽小の未来の教育課程は
世界へつながっている



夢叶える教育のまち たまむら

令和6年度 玉村町の教育 玉村町教育委員会
〔教育行政方針〕
教育の本質を見極め、未来を見据えた改革

自己実現

自立 自己を貫き、夢や目標の実現に向けて前向きに行動する力

共生 他者を尊重し、多様な人々と調和を重んじながら行動する力

学校教育 <目指す姿> 自ら考え判断し、自ら行動できる子供
～夢や希望を育む学校教育の推進～

生涯学習 <目指す姿> 学び喜びを味わい、自己を磨き、豊かに生きよとする人
～生きがいと輝きをつくる生涯学習の推進～

第5の次玉村町総合計画
<目指す姿> <教育・調和・未来目標>
● 学びの機会を確保し、生涯学習の推進を図る ● 学びの機会を確保し、生涯学習の推進を図る
● 学びの機会を確保し、生涯学習の推進を図る ● 学びの機会を確保し、生涯学習の推進を図る

玉村町教育大綱・玉村町教育振興基本計画
<基本理念> ○ 全ての児童が夢や希望を持って成長を遂げることであり、社会の豊かに貢献し、社会を築いていく。

<基本方針> ○ 家庭・学校・地域がそれぞれの役割を果たし、相互に連携・協働し、教育を実現する。
○ 全ての児童が「生涯学習」を通じて、生涯学習の推進を図る。
○ 全ての児童が「生涯学習」を通じて、生涯学習の推進を図る。
○ 一人一人が生涯学習者であり、自己を磨き、共に学びを深める。

第4期 群馬県教育振興基本計画
群馬県教育ビジョン
計画期間：2024年4月～2029年3月

最上位目標
県民一人ひとりのウェルビーイングを創り出し、持続可能な社会を実現するために、学びの機会を確保し、生涯学習の推進を図る。

目指す姿
● 学びの機会を確保し、生涯学習の推進を図る
● 学びの機会を確保し、生涯学習の推進を図る
● 学びの機会を確保し、生涯学習の推進を図る

実現の基盤
● 学びの機会を確保し、生涯学習の推進を図る
● 学びの機会を確保し、生涯学習の推進を図る
● 学びの機会を確保し、生涯学習の推進を図る

2024年3月 群馬県教育委員会

VISION 2040
新・群馬県総合計画

The New Gunma Plan

持続可能な社会の創り手の育成

第4期
令和5年度～令和6年度
教育振興基本計画
令和5年6月16日 閣議決定

日本社会に根差した
ウェルビーイングの
向上

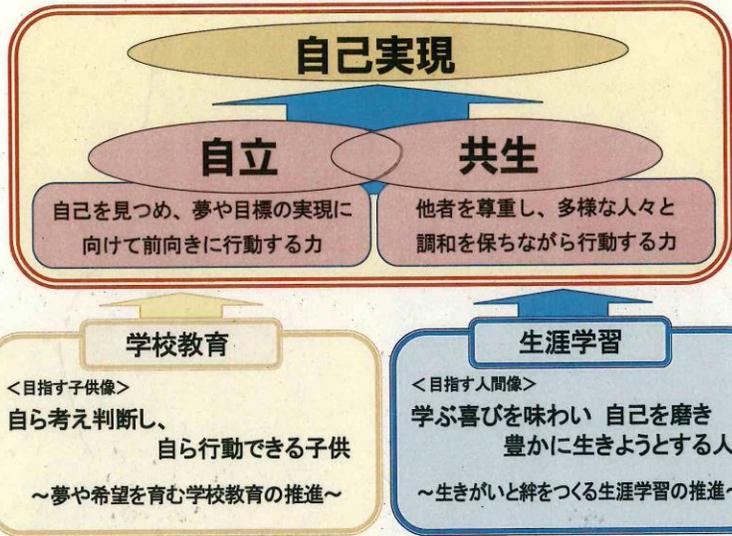
文部科学省



夢叶える教育のまち たまむら

令和6年度 玉村町の教育 (教育行政方針) 玉村町教育委員会

教育の本質を見極め、未来を見据えた改革



第6次玉村町総合計画

<目指す将来像> **暮らすなら、ここがいい**

<教育に関わる重点目標>

- 「わざわい」から生命と財産をまもる
- 元気に年を重ねられる町をつくる
- 笑顔と活気ある地域をつくり、つなげる
- 子どもを育て未来をつくる
- たまむらの良さを次世代につなぐ

玉村町教育大綱・玉村町教育振興基本計画

<基本理念> 全ての町民が夢と希望をもって理想を追求することができるよう、社会の変化に対応した教育を実践する。

- 家庭・学校・地域がそれぞれの役割を果たし、相互に連携・協働した教育を実践する。

<基本方針> 全ての教育(家庭教育・学校教育・社会教育等を含む)において

- 「生きる力」を育み、社会の変化に主体的に対応できる人を育成する。
- 一人一人が生涯活躍できるよう、自己を磨き、共に学ぶ環境をつくる。

令和6年度 玉村町の学校教育

目指す子供像 **自ら考え判断し、自ら行動できる子供**

重点 **夢や希望を育む学校教育の推進**

未来を拓く総合的な人間力の育成

- ① 確かな学力を培う教育
 - 生きて働く「知識・技能」の育成
 - 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力」等の育成
 - 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力」の育成
 - 英語コミュニケーション能力の育成
- ② 豊かな人間性を育む教育
 - 豊かな心情や社会性の基礎の育成
 - 非認知能力(自己肯定感、意欲、粘り強さ、創造力等)を育む教育の推進
 - 多様性を尊重し、協働するインクルーシブ教育の推進
 - 道徳科を要とした教育活動全体を通じた道徳教育の推進
 - いじめ等への対応の徹底と人権教育の推進
- ③ 心身の健康と体力を育む教育
 - 自ら健康で安心な生活をづくり出すとする心情と態度の育成
 - 生涯にわたって健康な生活を送るために必要な力の育成
 - 望ましい生活習慣の育成
 - 体力向上を図るスポーツ活動の充実
 - 自ら命を守る危機回避能力の育成
- ④ 社会的・職業的自立のためのキャリア教育
 - 自発的・主体的な活動を通じた、人と関わる力の育成
 - 特別活動や総合的な学習の時間を要とした教科横断的なキャリア教育の推進
 - 地域や企業と連携した職場体験学習等の実施
 - 様々な人や地域とつながる体験・交流活動の充実
- ⑤ 学校・園、関係諸機関との連携
 - 教職員研修会等での幼小中の教職員の交流の推進
 - 子ども議会、子ども会議等での児童生徒の交流の推進
 - 個別の教育ニーズに応じた適切な支援・指導の充実
 - 各学校・園、「こどもまんなか支援センター」にじいる、保健・福祉・医療機関等との連携の強化

地域とともにある学校づくり

- ① 特色ある学校・園づくりの推進
 - 相談体制の強化、適切な育児支援の充実
 - 学校・園、家庭、地域が一体となった学校・園づくり
 - 地域人材や専門家等を積極的に活用し、社会とつながる教育活動の充実
- ② 学校支援センターの充実
 - 授業支援や読み聞かせ、安全パトロール等、ボランティアの活用と町行事等への積極的参加の推進
 - 地域スポーツ団体や関係機関等との連携の充実
 - 各種団体、大学等からのボランティアの確保
- ③ 効果的な情報発信の充実
 - 学校ホームページやメール配信システム等を活用した効果的な情報発信の充実

教育環境の充実・整備

- ① 幼稚園・小中学校の施設の整備・管理
 - 学校施設等個別長寿命化計画に基づく施設・設備の修繕・更新
 - 施設の安全確保や教育環境の充実
 - 子供の学びや教職員の勤務を支えるICT環境の充実・整備
- ② 教育支援、人的環境の充実・整備
 - 英語教育充実のための、外国語指導助手(ALT)の全小中学校への常駐配置及び幼稚園へ派遣
 - 特別支援学級補助員・介助員、日本語教室支援員、キャリア・サポート・スタッフ、スクール・サポート・スタッフ、部活動指導員等の配置によるきめ細かな支援
- ③ 就学困難な児童生徒への支援の充実
 - 就学援助費、奨学金等の充実
- ④ 安全・安心な学校給食の充実
 - 栄養教諭等を活用した食育指導の充実
 - 玉村産食材を豊富に活用した学校給食の提供

※玉村町教育振興基本計画より

最上位目標 夢 × 未来 = 自立

夢が自分の未来を創りだす

第4期 群馬県教育振興基本計画
群馬県教育ビジョン
 計画期間：2024年4月～2029年3月

最上位目標 自分とみんなのウェルビーイングが重なり合い、高め合う共生社会へ向けて
 -ひとりひとりがエージェンシーを発揮し、自ら学びをつくり、行動し続ける「自律した学習者」の育成-

相談していいし、助けを求めてもいいんだよ
 「学ぶ」って楽しい
 試行錯誤しよう。失敗してもいいのだと知ろう。それが自分を強くしてくれるよ。
 「ナメの関係」や「ゆるいつながり」も大事なんだよ
 知らないことを知るのは楽しいよ
 リアルでも、デジタルでも色々なつながり方がいいよ
 社会をつくるのも変えていくのも「誰か」じゃなくて「自分」だよ
 動き出してる仲間もあるよ

自分も、みんなも、幸せになろう

— これからの時代を生きていく私たちに必要なこと —
自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す
 人は、誰も、生まれついて自分と社会をより良くしようと願う意志や原動力を持っている。

- 一人一人が、自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す「自律した学習者」であること
- 子どもと大人が、お互いを主体として認め合い、協力しながら社会を作っていくこと
- 地域と、学校と、家庭が、協力して学びの場を作り、共に学び続けていくこと

現状の課題

- 私たちの（子どもたちの）主体性や社会参画への意識が弱いとされるのは何故か？
- 良かれとの思いから、失敗しないように先回りして与えすぎる教育が、生まれつき持っていた自ら成長する力（エージェンシー）を損なっていたのではないか？
- これまで以上に先行きが不透明とされる時代に必要なのは、どんなものなのか？

2024年3月 群馬県教育委員会

より良くしたい気持ちは誰もが持っている。大人も、子どもも、それぞれが社会を形成するメンバーだ。
 — 持ち続ける視点① —
 大人も、子どもも、社会的な“一人の主体”

自分で考えて、自分で決めて、自分で動き出す
群馬県の教育が目指す5つの学習者像

- 1. 自らが主語となる学びをつくり、深めていく
- 2. 対話と交流により、信頼関係を築いていく
- 3. 生涯にわたる学び続ける喜びを実感し、共有していく
- 4. 多様性を尊重し、互いに認め合う
- 5. 社会課題を自分事化して、行動に移す

※「自律した学習者像」は、5つの独立した人物像ではありません。一人の人物像はあっても身に付けてほしい要素として位置付けています。

“学び”は学校だけじゃない。様々なつながりで様々な場所で様々な学び合いを。
 — 持ち続ける視点② —
 学校で、家庭で、地域で…自ら学びつづ、共に学び育つ

目指す学習者像実現のための5つの重点政策

- 1 変化の激しい社会に対応できる資質・能力の育成**
 発達段階や個性、興味関心に応じた一人一人の主体的な学びを通じて、知識・技能等の認知能力と学びに向かう力等の非認知能力を相互に強化しながら身に付ける
 ●自ら学びをつくる力の育成
 ●自ら考え、判断し、行動できる力の育成
 ●自立の基盤となる資質・能力の育成
- 2 多様性を尊重し、協働する力の育成**
 全ての子どもの可能性を最大限に伸ばすとともに、一人一人が自分を大切に、異なる状況にある他者を尊重し、対話や交流を行い、互いにとって良い方向を見出しそととする姿勢を身に付ける
 ●特別支援教育の推進
 ●互いを理解・尊重する活動の推進
 ●多様な価値観を踏まえた協働の推進
- 3 自分と社会をより豊かにするための生涯にわたる学びの支援**
 人生100年時代において学び続ける意欲を高め、自らの興味関心に基づいて社会課題を自分事化して深める学びや、文化・芸術との関わりを深めること等により、それぞれの学習者の自己実現や地域コミュニティの基盤形成につながる学びを豊かにすることを旨とする
 ●主体的に社会の形成に参画する態度の育成
 ●社会教育や体験活動等の多様な学びの充実
- 4 心と体の健康に対する理解と向上**
 自らの生命の大切さを認識し、心と体の健康に関する基本的な知識を身に付け、心身相関の関係性等を理解して実践につなげることで、全ての学びの基盤である心身を整える術を身に付ける
 ●心と体の健康への理解と意識向上
 ●身体活動の充実とスポーツを楽しむ意識の醸成
 ●安全・安心に係る意識の向上
- 5 時代の変化に対応した教育イノベーションの推進**
 教育の「不届（変わらない本質）」の部分も「流行」の部分も大切にしながら、真を挙げて「数人」（自分の力で未来を考え、動き出し、生き残る力を持つ）の育成につながる新しい取組に挑戦する
 ●自分で考え動き出す（課題解決能力育成）
 ●デジタルツールを使こなす（デジタル人材育成）
 ●世界に向けた「グローバル人材育成」
 ●教育DX（DXを基盤とした新しい学びの確立）
 ●全ての人が活躍できる（誰一人取り残さない学び）

群馬の教育を推進する基盤となる5つの重点政策

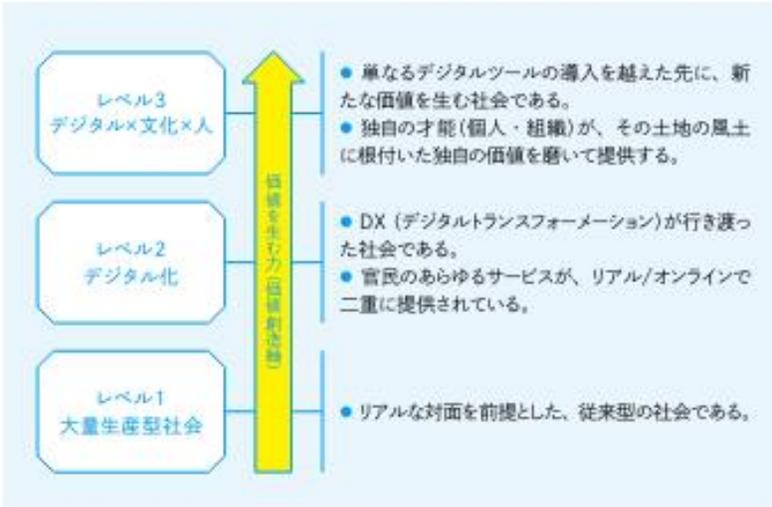
- 1 「人」を支える取組の充実**
 教職員が能力を最大限に発揮できる環境を整備することで、児童生徒と教職員が生き生きと学び合える学校を実現する
 ●教職員の働き方向上
- 2 これからの時代の学びを支える施設・設備整備の推進**
 時代に応じて変化していく学びに対応するため、将来を見据えた施設・設備等の整備を推進する
 ●県立学校の再編整備及び施設・設備整備の推進
- 3 これからの時代の学びを見据えた体制の整備**
 学習者が活躍する将来の社会に必要な資質・能力を育む教育を推進するため、新たな学びの在り方に対応できる教育体制を整える
 ●学校の魅力向上
 ●デジタル学習基盤の整備
 ●インクルーシブ教育推進に向けた体制整備
- 4 学びの充実に向けた様々な主体による連携・協働の推進**
 学びの充実に向けた様々な主体による連携・協働の推進
 ●「地域とともにある学校」・「学校とともにある地域づくり」に向けた取組の充実
 ●生涯学習・社会教育を推進する環境整備
- 5 全ての子どもを支援する取組の充実**
 全ての子どもの可能性を最大限に伸ばす教育を目指し、教育費負担の軽減を図りつつ、個別の課題を抱える子どもに対して、「教育」・「福祉」・「保健」・「医療」・「司法」・「地域」・「民間団体・企業」等の連携により、年齢や背景の多様性に応じた支援を行う
 ●教育に係る経済的支援
 ●不登校児童生徒等への支援の充実
 ●様々な背景要因により本来持つしなやかさや力強さを発揮しづらい子どもに対する支援

最上位目標 夢 × 未来 = 自立 夢が自分の未来を創りだす

始動人

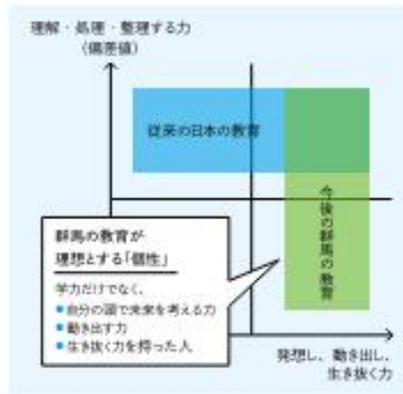
A 価値を生む 自立分散型の社会

2つの軸のうちの1つは「価値創造軸」です。変化の見通しで見たように、今後20年間はデジタル化とともに価値の源泉がデータにシフトします。そのためデジタル化は必ず取り組まなければなりません。デジタル化に対応しながら群馬県が「快疎」な地域として魅力を増すためには、デジタルを地域固有の価値(文化)と結び付け、未来を妄想することで、新しい価値を生み出していく必要があります。「デジタル×文化×人」が、これからの群馬県の方程式です。



他人が目指していない領域で動き出す「始動人」

新たな価値を生むことで富が得られる時代に求められる人物像を私たちは「始動人」と定義しました。「始動人」とは、「自分の頭で考え、他人が目指さない領域で動き出し、生き抜く力を持つ人」のこと。「始動人」は特別な人ではなく、誰もがその「かけら」を持っています。この「かけら」を育てていくことが重要で、このための長期戦略として、教育イノベーションを推進。「始動人輩出県」と認知されることをゴールに据えます。



新・群馬県総合計画 VISION2040

【群馬県が目指す2040年の姿】
すべての県民が、誰一人取り残されることなく、自ら思い描く人生を生き、幸福を実現できる自立分散型の社会

【群馬の教育が理想とする“個性”】
学力だけでなく「自分の頭で未来を考える力」「動き出す人」「行く抜く力を持った人」



知事解説

創造が価値を生む時代に対応する人材

右肩上がりに経済成長してきた時代には、決められたルールと目標の中で、効率的に達成で

きる人物が評価されました。しかし、ルールや目標が明確でない中では、「始動人」が求められる人物像です。



誰もが「始動人」の「かけら」を持っています



教育イノベーションの推進 (STEAM教育)

ニューノーマルへの転換は、多くの人にとって痛みを伴う。一方で、変化をポジティブに捉え、積極的に動く人もいる。

最上位目標 夢 × 未来 = 自立 夢が自分の未来を創りだす

持続可能な社会の創り手の育成

第4期
令和5年度～令和9年度

教育振興基本計画

令和5年6月16日 閣議決定

日本社会に根差したウェルビーイングの向上

教育とウェルビーイング

日本社会に根差したウェルビーイングの向上

- 不登校やいじめ、貧困など、コロナ禍や社会構造の変化を背景として子供たちの抱える困難が多様化・複雑化する中で、一人一人のウェルビーイングの確保が必要
- 子供・若者に、つながりや達成などからもたらされる自己肯定感を基盤として、主体性や創造力を育み、持続可能な社会の創り手の育成を図る必要
- 地域における学びを通じて人々のつながりやかがわりを作り出し、共感的・協調的な関係性に基づく地域コミュニティの基盤を形成

教育に関連するウェルビーイングの要素	自己肯定感	心身の健康	幸福感 ・関心と興味 ・自分と関りの他者	協働性	社会貢献意識	学校や地域でのつながり
	自己実現 ・達成感 ・キャリア意識 等	安全安心な環境	多様性への理解	利他性	サポートを受けられる環境	

教育活動全体を通じたウェルビーイングの向上

各要素を育む教育活動の例	個別最適な学びと協働的な学びの一体的充実 →子供たちの多様な状況に応じた学習者主体の学び、多様な他者と協働した学び →きめ細やかな指導を通じた確かな学力の育成	多様な教育ニーズへの対応と社会的包摂による共生社会の実現に向けた学び・生徒指導 →特別支援教育、いじめ・不登校対応 等	地域や家庭で共に学び合う環境整備 →コミュニティ・スクールと地域学校協働活動の一体的推進 →社会教育を通じた地域コミュニティ形成
	キャリア教育・職業教育、課題解決型学習 →社会的・職業的自立に向けたキャリア教育 →地域や社会の課題解決型学習	豊かな心・健やかな体の育成、安全・安心 →道徳教育、体験活動、学校保健の推進 →学校施設の整備、学校安全の確保	グローバル社会における国際交流活動 →海外留学推進、外国人留学生受け入れ →地域社会の国際化、多文化共生

主観的認識のエビデンス把握

教師のウェルビーイング、学校・地域・社会のウェルビーイング

日本社会に根差したウェルビーイングの向上

子供たちのウェルビーイングを高めるためには教師をはじめとする学校全体のウェルビーイングが重要。また、子供たち一人一人のウェルビーイングが、家庭や地域、社会に広がっていく、その広がりが多様な個人を支え、将来にわたって世代を超えて循環していくという姿の実現が求められます。



2つのコンセプト

持続可能な社会の創り手の育成

- 将来の予測が困難な時代に、未来に向けて自らが社会の創り手となり、持続可能な社会を維持・発展させていく人材を育てる
- 主体性、リーダーシップ、創造力、課題設定・解決能力、論理的思考力、表現力、チームワークなどを備えた人材の育成

日本社会に根差したウェルビーイングの向上

- 多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに、地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるよう、教育を通じてウェルビーイングを向上
- 幸福感、学校や地域でのつながり、協働性、利他性、多様性への理解、社会貢献意識、自己肯定感、自己実現等を調和的・一体的に育む

ウェルビーイングとは

日本社会に根差したウェルビーイングの向上

- 身体的・精神的・社会的に良い状態にあることをいい、短期的な幸福のみならず、生きがいや人生の意義などの将来にわたる持続的な幸福を含む概念。
- 多様な個人がそれぞれ幸せや生きがいを感じるとともに、個人を取り巻く場や地域、社会が幸せや豊かさを感じられる良い状態にあることも含む包括的な概念。

日本発・日本社会に根差したウェルビーイングの向上

日本社会に根差したウェルビーイングの向上

日本の社会・文化的背景を踏まえ、我が国においては、自己肯定感や自己実現などの獲得的な要素と、人とのつながりや利他性、社会貢献意識などの協調的な要素を調和的・一体的に育み、日本社会に根差した「調和と協調」に基づくウェルビーイングを教育を通じて向上させていくことが求められます。

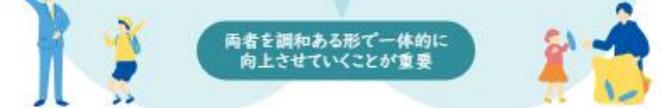
個人が獲得・達成する能力や状態に基づくウェルビーイング (獲得的要素)

- 自己肯定感
- 自己実現 など

人とのつながり・関係性に基づくウェルビーイング (協調的要素)

- 利他性
- 協働性
- 社会貢献意識 など

両者を調和ある形で一体的に向上させていくことが重要



最上位目標 夢 × 未来 = 自立 夢が自分の未来を創りだす

The OECD Learning Compass 2030



学びの中核として、必要となる基礎的な知識・スキル・態度や価値観

仲間や教師,保護者,地域社会との協働で共創的なエージェンシー

学習者のエージェンシー変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

SDGsの2030年行動目標へ適応したWell-Being

「見通し→行動→振り返り」のサイクルで、学習者が継続的に改善させウェルビーイングに向かおうとする力

最上位目標 **夢** × **未来** = **自立** 夢が自分の**未来**を創りだす “個別最適な学び”や“学びなおし”の環境として『AI型学習教材』の導入と『自由進度学習』

自由進度学習とは

子どもが自分のペースで学習をおこなう学習形態のこと

自由進度学習の流れの例



寺子屋朝日 for Teachersより

—なぜ自由進度学習に取り組みたいと思ったのでしょうか？

一般的な授業はペースが決まっているので、理解のゆっくりな子が分かっていようといまいと、どんどん授業は進んでいってしまいます。

一方、理解の早い子やすでに知っている子たちも、勝手に先に進むことは許されず、静かに椅子に座って先生の話を聞いていなければなりません。

それが自由進度学習であれば、自分のレベルでどんどん学習を進められるので、常に刺激的な課題と向き合えます。できなかったことができるようになることで、成長実感も味わうことができます。 蓑手章吾 (みのてしょうご)



学力上位層も下位層どちらにとってもメリット

- ただ従来の自由進度学習のデメリット・・・
- ・ 学力格差が大きくなる
 - ・ 時間的制限により学びが終わらない



AI型学習教材を用いた自由進度学習

- ・ 適切な課題を選択するため学力格差が解消
- ・ 効率的に学ぶため従来より時間が短縮できる

特長01

AIが一人ひとりに合わせて最適な問題を出題

児童・生徒によって間違え方はそれぞれであり、解決方法もそれぞれです。Qubenaでは、間違いの原因をAI(人工知能)が解析し、掲載している数万問から一人ひとりに個別最適化された問題を出題します。たとえ過去の単元や前の学年の分野にすぎずポイントがあったとしても、AIがそれに気づき、その問題へ連れていってくれます。児童・生徒間の学力に課題がある場合や習熟度別のクラスでも、基礎から応用まで様々なレベルに応じた学習ができます。



3年1組

リアルタイム	期間	単元
小笠原 碧	学習中のステージ	理科 ワークブック 6/12 水の性質
指定パート	指定パート 0/10/12問	28/30 (+6)
奥田 優介	理科 数学 中1 1正の数・負の数 3自然数	28/30 (+6)
指定パート	指定パート 0/10/12問	28/30 (+6)
石川 遼輔	理科 社会 地理 1世界の国 3世界の地域区分	28/30 (+6)

特長04

学習データできめ細やかな学習指導を

児童・生徒が解いている問題、解答時間、正答率などの学習データは、専用の管理システムによってリアルタイムに収集・分析されています。それぞれの児童・生徒の理解度を瞬時に把握できるので、質問があった場合もわかりやすい学習指導を可能にします。授業中の問題演習やテスト、家庭学習など児童・生徒の学習を全て把握することで、一人ひとりにきめ細やかな指導や成績評価ができます。



COMPASSより

最上位目標 **夢** × **未来** = **自立** **夢**が自分の**未来**を創りだす

学年を越えた「体験と交流」が児童のAgencyを培い、Well-beingの実現を目指します。

1,2年合同 公園探検 (第1学年)



初めてのグループ活動を通して、多様な他者と協働する意義を理解したり、行動の仕方を身に付ける。

1,2年合同 公園探検 (第2学年)

低学年のリーダーとして、集団の課題を見だし、解決するために話し合い、合意形成を図ったり、意志決定したりする力を育む。



1,2年合同遠足 “夢をつくる”



公園探検等の実践的な集団活動を通して、身に付けたことを生かして集団生活や人間関係をよりよく形成するとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現(夢)を図ろうとする態度を育てる。

Agency：変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力「OECDラーニング・コンパス（学びの羅針盤）の概念＝「よりよい未来の創造に向けた変革を呼び起こす力」＝Well-beingを目指す原動力

最上位目標 **夢** × **未来** = **自立** 夢が自分の**未来**を創りだす

学年を越えた「体験と交流」が児童のAgencyを培い、Well-beingの実現を目指します。

3,4年合同 みなかみGO! (3年)



自然×チームワーク＝上陽小の未来のリーダー

- ・SDG'sからWell-beingへ
- ・平素とは異なる環境でのたてわり活動 (R5,R6:谷川岳ハイキングとラフティング体験)

3,4年合同 みなかみGO! (4年)



自然×チームワーク＝上陽小の未来のリーダー

- ・ブロックリーダーの立場で主体的に役割を担い、その大切さを実感できる。
- ・「優しさ」や「強さ」から自分自身が憧れや頼りの存在であることに気づくことができる。

4年 ぐんまWalker



- ・バスや保護者の車での移動(他者の力)ではなく、電車などの公共交通機関(自分の力)を利用しての移動を経験し、高学年の校外学習につなげる。
- ・群馬の世界遺産(富岡製糸場)と群馬の未来(高崎駅)に行き、群馬の良さを再発見させる。

4年生 総合 みらいのケアを 考える「みらケア」



上陽小×企業＝SDG'sからWell-beingへ

- ・「やさしい心×アイデア＝未来のイノベーター」をコンセプトに『困った人を助けるみらいの道具をつくらう』というテーマを掲げ、自分たちのアイデアを地域の企業（「ケアコム」：多様なナースコールを開発し製品化する地元企業）とコラボレーションし、商品開発をするプロジェクト。児童自身が、社会に参画しているという自覚と自信を持つことができる。

Agency：変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力「OECDラーニング・コンパス（学びの羅針盤）の概念＝「よりよい未来の創造に向けた変革を呼び起こす力」＝Well-beingを目指す原動力

最上位目標 **夢** × **未来** = **自立** 夢が自分の**未来**を創りだす

学年を越えた「体験と交流」が児童のAgencyを培い、Well-beingの実現を目指します。

5年生 臨海学校



- ・ 集団宿泊体験を通して集団への所属感と連帯感、協調性や自立性が育まれる。
- ・ 自然環境（海）への知見を広め、自然や文化に親しむ心が育まれる。

5,6年合同 TokyoWalker



- ・ 圧倒的な情報量と社会の変化に直接触れることで、個人と社会との関わりを体験し、Well-beingの向上について考えることができる。
- ・ 平素と異なる生活環境の中での異学年交流により、年長年少それぞれの立場で主体的に役割を担い、その大切さを実感できる。

5,6年合同 TokyoWalker



- ・ 平素とは異なる環境でのたてわり活動（年長児としての振る舞いや責任感）
- ・ 先輩たちの姿を思い出し、5年生のお世話される側から、6年生の憧れを持たれる側へという役割の推移

6年生 修学旅行



- ・ 事前,事後学習と併せて、日本の歴史的文化や芸術に対する問題解決的で探求的な学習を行うことで見えない学力（非認知能力）培う。
- ・ 教科学習で得た知識を、実地の見学等により具体化し発展
- ・ 自ら計画し実行することでの自主性と責任感

Agency：変化を起こすために自分で目標を設定し、振り返り、責任をもって行動する能力「OECDラーニング・コンパス（学びの羅針盤）の概念＝「よりよい未来の創造に向けた変革を呼び起こす力」＝Well-beingを目指す原動力

最上位目標 **夢** × **未来** = **自立** 夢が自分の**未来**を創りだす

体験と交流をインクルーシブに。

6年 修学旅行



- ・全行程において、車椅子利用の児童が他の児童と同様の班別行動に参加。
- ・訪日外国人旅行者との交流を通して、多文化共生社会への興味や理解の足掛かりに。

3,4年 合同校外学習



- ・通常学級と支援学級（知的,情緒）の分け隔てなく、ハイキングやラフティングに参加。
- ・車椅子利用の児童は、介護タクシーの利用のハイキングと木育クラフトにより、自然学習の目的やテーマの共有。